＊2025 年 1 月改訂(第 2 版)
2024 年 7 月作成(第 1 版)

医療機器承認番号 30500BZX00190000

機械器具(74)　医薬品注入器
高度管理医療機器　経腸栄養用輸液ポンプ　JMDN コード：13209000
管理医療機器　ポンプ用経腸栄養注入セット　JMDN コード：70376000

特定保守管理医療機器　カンガルー OMNI ポンプ

再使用禁止(カンガルー OMNI ポンプセット)

【警告】

1. 弊社の許可なしにポンプ本体の筐体を開けたり改造したりしないでください。[治療の遅延、過剰投与、過小投与、感電、火災を含む物理的な危険を招く恐れがある。これらの危険性は患者の負傷や死亡につながる可能性がある]
2. アラーム音をはっきりと認識できるように、通常の動作中にスピーカーホールが遮られないようにしてください。[アラーム音を聞き取ることができないと、オペレーターが重要なアラームを聞き逃し、患者に重大なリスクをもたらす恐れがある]
3. ポンプ本体は静脈内投与を目的としたものではありません。患者の静脈内投与には使用しないでください。[経腸栄養剤を静脈内投与すると、死亡に至る、又は死亡を含む重大な合併症を引き起こす可能性がある]
4. ポンプ本体及び付属品には、マルチタップコンセントや延長コードを使用しないでください。[マルチタップコンセントや延長コードを使用すると、電気的安全性の低下や感電の危険が高まる]
5. ワイヤ、コード、チューブを、人が躓いて怪我をする可能性のある通路に放置しないでください。[電源アダプタコード、ポンプセットチューブ、ポンプ付属品は躓きの危険性を招く可能性がある]
6. 電源アダプタコード、ポンプセットチューブ、その他窒息の危険性のあるものを、乳幼児に絡まる可能性のある場所に放置しないでください。[これらのものが子供の頸部に絡まると、首が閉まる恐れや死亡する恐れがある]
7. ポンプ本体、ポンプセット、及び付属品はすべて、外れると窒息の危険をもたらす可能性のある小さな部品が含まれています。これらの部品の一部は、小児、幼児、又は乳児が吸入又は嚥下する可能性があり、窒息及び死亡につながる恐れがあります。小さな部品は全て、小さな子供の手の届かないところに保管してください。
8. 洗浄や保守点検を行う前には、必ず電源アダプタを外してください。これを怠ると感電する可能性があります。場合によっては、死亡につながる恐れがあります。

【禁忌・禁止】

＜適用対象(患者)＞

ポンプ本体は、ポンプ本体の流量及び精度レベルに耐えられる患者にのみ使用してください。本品を早産時(妊娠 37 週未満)及び新生児(生後 1 か月未満)に使用しないこと。[ポンプ本体の精度に耐えられない患者に栄養剤を投与すると、過剰又は過小投与になり、誤嚥の可能性がある]

＜併用医療機器＞

1. ポンプ本体には、必ず専用のポンプセットを使用してください。[専用品以外のポンプ用経腸栄養注入セットとの互換性がないため、ポンプ本体に他のポンプセットを使用すると、フリーフロー状態などの危険な状況が発生し、過剰投与、過小投与、肺への栄養剤注入、患者の死亡につながる恐れがある]
2. 取扱説明書で推奨されていない付属品、脱着可能な部品、及び器具は、ポンプ本体と共に使用しないでください。[純正付属品を使用しないと、ポンプ本体が破損する恐れや、怪我をする恐れがある。またこの機器の電磁放射が増加したり、電磁波耐性が低下したり、不適切な動作につながる可能性があります]
3. ポンプ本体は、MR Unsafe であり、MR 検査は禁忌です。[ポンプ本体及び付属品には、意図しない動きを引き起こす可能性のある金属部品が含まれている。この予期しない動きは、落下物や衝突により害を及ぼす可能性がある]

＜使用方法＞

1. 再使用禁止(ポンプセット)
   ポンプセットは使い捨ての単回使用品のため、再使用しないでください。
2. ポンプ本体を可燃性麻酔剤の近くで使用しないでください。[可燃性麻酔薬はユニット内の火花によって引火する可能性があり、火災や爆発を引き起こす恐れがある]

【形状・構造及び原理等】

1. 概要

本品は、蠕動式ローラーポンプによって発生した陽圧により経腸栄養剤を患者に注入することを目的とし、予め設定された投与速度または投与量に従って持続的に投与する経腸栄養用輸液ポンプである。本品は、院内又は在宅での使用を想定しており、患者が設定可能な投与プログラムを有する。構成品として単回使用のポンプ用経腸栄養注入セットを含む。また、本品は IDDSI(国際嚥下食標準化構想)レベル 0～4 すなわち、液体から濃いとろみの飲料までの栄養剤の投与が可能である。

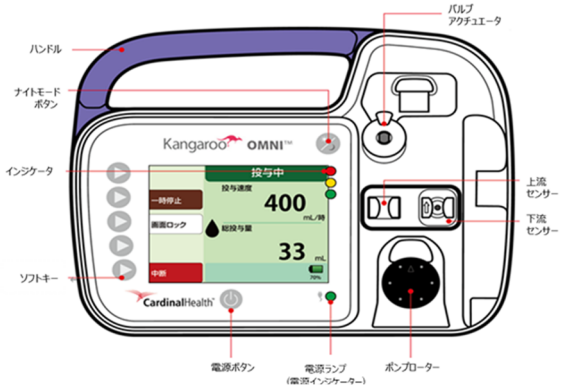
2 構成

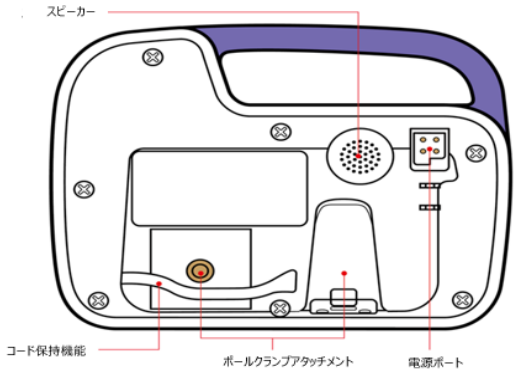
1) カンガルー OMNI ポンプ本体
   (一般的名称:経腸栄養用輸液ポンプ)
2) カンガルー OMNI ポンプセット*
   (一般的名称:ポンプ用経腸栄養注入セット)
3) 電源アダプタ
4) 車載充電器
5) ポールクランプ
6) バックパック

＊単回使用

3. 形状

(1) ポンプ本体



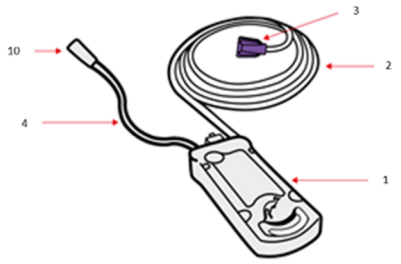


取扱説明書を必ず参照すること

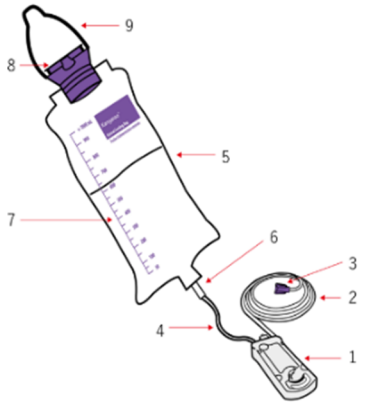
250120 DC00140770

(2)カンガルー　OMNI　ポンプセット
※投与する栄養剤の粘度にあったポンプセットを使用してください。

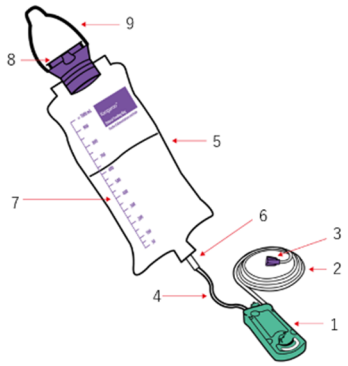
①　RTH アダプタセット



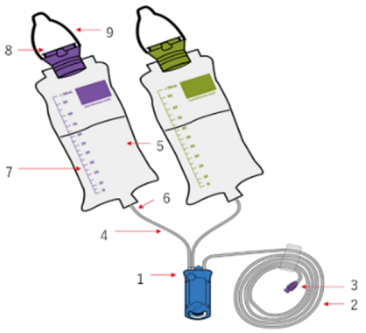
②　500mL フィードセット/1,000mL フィードセット



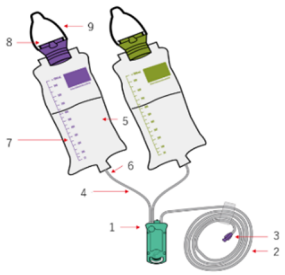
③　高粘度栄養剤用フィードセット
推奨栄養剤粘度:IDDSI レベル*2-4 に相当する経腸栄養剤



④　フィード＆フラッシュセット



⑤　高粘度栄養剤用フィード＆フラッシュセット
推奨栄養剤粘度:IDDSI レベル*2-4 に相当する経腸栄養剤



＊IDDSIレベルはIDDSI(国際嚥下食標準化構想)から考案され、8段階の範囲からなる嚥下食のフレームワーク。

1	カセット	6	接続管
2	連結管Ⅱ	7	目盛
3	誤接続防止コネクタ	8	バッグキャップ
4	連結管Ⅰ	9	バッグハンガー
5	バッグ	10	RTH アダプタ

構成品名称	容量
RTH アダプタセット	なし
500mL フィードセット	500mL
1,000mL フィードセット	1,000mL
フィード＆フラッシュセット	各 1,000mL
高粘度栄養剤用フィードセット	1,000mL
高粘度栄養剤用フィード＆フラッシュセット	各 1,000mL

原材料:ポリ塩化ビニル、ポリエステル共重合体、ポリカーボネート、ポリエチレン、シリコーンゴム、スチレンエチレンブチレンスチレン共重合体、プライマー、エチル 2-シアノアクリレート

※本品は DEHP(フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)を使用していない。

4. 電気的定格
1)　商用電源
a. 電源電圧:AC100～240V
b. 電源周波数:50/60Hz
c. 入力電流:1.0A(1.0～0.5A)
d. 機器本体の電源入力:DC5V　4.0A
2)　内部電源
a. 電池種類:リチウムイオンバッテリー
b. 動作時間:約 20 時間(投与速度 125mL/h)
c. 充電時間:12 時間
3)　車載充電器
a. 電源入力:10.8～17.6VDC
b. 出　　力:5.0V、5.0A

5. 機器の分類
1)電撃に対する保護の形式による分類:クラスⅡ機器及び内部電源機器
2)電撃に対する保護の程度による分類:BF 形装着部
3)水の有害な浸入に対する保護の分類:IP26(ポンプ本体)

6. 原理
(1) カンガルー　OMNI　ポンプ　本体

本品は容積制御方式(ボルメトリック形)のポンプである。内蔵のモーターにより回転するローターに装着されたポンプセットのチューブを蠕動的に圧迫することにより、チューブ内の溶液を移動させて送液する。

(2)カンガルー　OMNI　ポンプセット

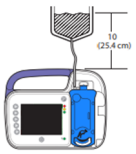
栄養剤を入れる容器部と回路部からなるセットと、栄養剤及びフラッシング液を入れる容器部と回路部からなるセットがある。回路部は誤装着防止用のカセットにあらかじめ取り付けられており、ポンプ本体に簡便に装着できる仕組みとなっている。回路部は、連結管、アンチフリーフローバルブ(STOP　バルブ)、リテーナ管、ポンプチューブ等で構成され、容器から患者に留置した経腸栄養カテーテルまでの流路となる。経腸栄養カテーテルとの接続部は誤接続防止用の　ISO80369－3　適合コネクタとなっている。また、単体の栄養剤のバッグと接続可能な RTH アダプタを有するセットもある。

【使用目的又は効果】

本品は、経腸栄養剤をポンプによって発生した陽圧により患者に注入することを目的とし、予め設定された投与速度又は投与量に従って連続(持続)注入を制御するポンプである。
構成品のポンプ用経腸栄養注入セットは、胃若しくは腸に栄養を投与するために使用する。コネクタ部分は輸液ラインとは異なる誤接続防止タイプである。

【使用方法等】

使用方法の詳細は必ず取扱説明書をご参照ください。
1.使用前の準備
(1) カンガルー OMNI ポンプ 本体
・電源アダプタのコードをポンプ本体の背面にある電源ポートに差し込み、電源アダプタのもう一方の端を AC コンセントに差し込む。車載充電器を使用する場合は、円筒形コネクタを自動車の充電ポートに差し込む。
・電源ランプの点灯をチェックして、ポンプ本体に電力が供給されていることを確認する。
・ポンプ本体のバッテリーはフル充電されていない状態で提供される。初めて使用する場合は、ポンプを 12 時間以上充電すること。
・ポンプ本体にポールクランプを取り付け、その後 IV ポールに取り付ける。
(2)カンガルー OMNI ポンプセット
・ポンプセットは、未滅菌の単回使用医療機器である。再使用しないこと。
・RTH アダプタセットの場合:RTH アダプタを栄養剤用の容器に取り付けた後、栄養剤の容器に必要量の栄養剤を注入し、容器のキャップを締めて吊るす。
・バッグセットの場合:バッグに必要量の栄養剤を注入し、バッグのキャップを締めて吊るす。
・フィード&フラッシュセットの場合:栄養剤及びフラッシンングの容器に必要量の栄養剤、フラッシング液を注入し、バックのキャップを閉めて吊るす。
2.使用方法
(1)ポンプ本体にポンプセットが装着されていないことを確認する。
(2)[電源]ボタンを押してポンプ本体の電源を入れる。
(3)ポンプ本体を以前に使ったことがある場合、直前の投与設定が自動的に保存されている。[設定を維持]を押して前回の投与設定を維持するか、[設定をクリア]を押す。
(4)画面の指示に従ってポンプセットをポンプ本体に装着する。
図に示されたとおり、投与する栄養剤の液面がポンプ本体上端の 25.4cm(10 インチ)上に来るように栄養バッグ又は栄養コンテナを吊るす。セッティングが終わったら、セット装着完了画面でポンプ本体が正しくポンプセットを認識したことを確認する。



(5)ポンプセットの自動プライミング又は手動プライミングを行う。
フィード&フラッシュセットを使用し、自動プライミングを行う場合は、まずフラッシング液がカセットに達するまで「手動フラッシュプライミング」ボタンを押し続け、次に投与液がカセットを通過して接続端コネクタに達するまで「手動フィードプライミング」ボタンを押し続けてプライミングを行う。
(6)投与速度、予定量、ボーラス回数、ボーラス間隔、フラッシュ量、フラッシュ間隔等、必要に応じて投与設定を行う。
(7)投与準備完了画面にて[開始]を選択し投与を開始する。
・投与を中断するには投与中画面にて[停止]を押す。
・画面ロックを有効にするには、投与中画面にて[画面をロック]を 5 秒間長押しする。ロックが有効になると鍵の記号が画面に表示され、ボタンが無効になっていることを示す。
・画面ロックを無効にするには、[画面ロック解除]を 5 秒間長押しする。ロックが解除されると、通常の投与中画面が表示される。
・オプション機能についてはマニュアルを参照すること。
・在宅で操作する場合は医師の指示に従って下さい。
3.使用後
(1)ポンプ本体正面の[電源ボタン]を長押しして電源を切る。
(2)ポンプセットをポンプ本体から取り外す。
(3)ポンプ本体のクリーニング及び消毒を行う。
・クリーニング方法
細菌汚染を防ぐために、ポンプセットを使用する度にポンプ本体を 30 秒以上クリーニングすることを推奨する。ポンプ本体をクリーニングしないとローターの機能が妨げられ、エラーやアラーム発生が増加する可能性がある。 通常クリーニングは、水と中性の食器洗い用液体洗剤を 20:1 の比率で使用し、洗浄液で湿らせたペーパータオルでポンプ本体をきれいに拭き、見える汚れをすべて取り除く。手の届きにくい隙間の汚物はブラシを使用して取り除く。
・消毒方法
ポンプ本体を複数の患者に使用する場合は、使用後にクリーニングして消毒する必要がある。これは同一のポンプ本体を介して、細菌、ウイルス、その他の病原菌が患者間で拡散するのを防ぐためである。水と 70%イソプロピルアルコールの割合が 10:1 の混合液で表面を湿らせると殺菌できる。装置を湿らせるには、混合液で湿らせたリントフリーワイプを 2 枚以上使用し、目で見て濡れた状態を保つよう、必要に応じて拭う。目で見て濡れた状態を 10 分以上保つこと。

<使用方法等に関連する使用上の注意>
(1)ポンプセットのバッグ内の栄養剤の上部圧力により、チューブがカセット内まで栄養剤で満たされることがある。その場合は、[自動プライミング]機能は無効になるので、[手動プライミング]でポンプセットのプライミングを行ってください。
(2)患者がいる部屋を出ると、アラーム音がさらに聞こえづらくなる場合があるので、注意すること。
(3)フィード&フラッシュのポンプセットを使用する場合、フィードセットを最初にプライミングした際は、フラッシュラインをプライミングしないでください。フラッシュ液のバッグとポンプ本体の間の空気がラインに押し込まれてしまいます。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意
(1)ポンプ本体、ポンプセット、電源アダプタ、又は車載充電器は、温度が 50℃以上になる場所に保管しないこと。[機器のセンサーが損傷して、ポンプ本体が通常の条件で作動できなくなる可能性がある]
(2)ポンプ本体は取扱説明書で指示されたとおりに使用すること。ポンプ本体と他の装置を相互接続したり、取扱説明書で推奨されていない方法で装置を改造したりしないこと。[これに従わないと、栄養剤が患者に正しく投与されない恐れがあり、ポンプ本体及び付属品が損傷する可能性がある]
(3)使用中は本品の破損、接合部の外れや緩み及び薬液漏れ等に注意し、適宜締め直し等の適切な処置を行い、定期的に確認すること。[接続部は使用中に緩むことがあるため]
(4)チューブに折り曲げや引張力等のストレスを与えないよう、注意すること。[傷付けて液漏れが生じるおそれがあるため]
(5)全操作中および使用中にハサミ等により、バッグやチューブを傷つけないように注意すること。また、チューブを鉗子、鑷子等で挟んでチューブを傷つけないように注意すること。[傷つけて液漏れが生じるおそれがあるため]
(6)本品の接続部に栄養剤等が残留した場合には洗浄もしくは交換すること。[接続部に残留した栄養剤等で菌が繁殖し、感染するおそれがあるため]
(7)使用中は誤接続防止コネクタの周囲に栄養剤の付着がないように清潔に保つこと。[栄養剤の固着により嵌合が外せなくなる恐れがあるため]
(8)誤接続防止コネクタを過度に締め付けないこと。[誤接続防止コネクタが外れなくなる又は、誤接続防止コネクタが破損し、接続部からの液漏れ、空気混入が生じる可能性がある]
(9)コネクタとの接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げる、捻るような負荷を加えないよう注意すること。[本品の抜け、破損、伸び等が生じる可能性がある]
(10)中鎖脂肪酸及び中鎖脂肪酸を含む栄養剤を投与した際は、コネクタ及びキャップ内に残らないよう、洗浄ふき取りを行うこと。[中鎖脂肪酸及び中鎖脂肪酸を含む栄養剤が付着した状態で過度な締め付けを行うと、ひび割れの発生を助長する可能性がある]
(11)設定された流量で栄養剤が流れているか、定期的に確認すること。
(12)栄養剤の添付文書に従い投与すること。チューブに詰まりが生じる可能性のある薬液等を投与しないこと。
(13)カセットの着脱はチューブを引っ張らず、コネクタを把持しながら行うこと。[チューブ接続部の破損、外れが生じるおそれがあるため]
(14)クリーニングや保守サービスを行う前に、必ず電源アダプタを外すこと。[これに従わない場合、クリーニング作業を行っているユーザーが感電する可能性がある]
(15)他の輸液装置との偶発的な誤接続により、患者に害を及し、死に至る恐れのある重大な危険性がある。
(16) *高粘度栄養剤用セットを使用する際に、200mL/時 未満の投与速度の場合は、 ENFit™ 互換の 10 Fr サイズ以上のチューブを使用してください。200mL/時 以上の投与速度の場合は、 ENFit™ 互換の 12 Fr サイズ以上のチューブを使用してください。

2. その他の注意
(1)ポンプ本体の充電には、付属の電源アダプタ又は車載充電器のみを使用してください。
(2)電源アダプタの交換と関連部品番号については、取扱説明書を参照してください。

(3)ポンプ本体の仕様については、取扱説明書を参照してください。その他の完全性チェックについては、弊社の実施する講習修了認定者、最寄りの弊社営業所または代理店にお問い合わせください。
(4)保守サービスまたは技術情報については、修理センターにお問い合わせください。
(5)ポンプ本体を開けないでください。お客様で点検、修理可能な部品はありません。ポンプ本体の機能が影響を受ける恐れがあり、保証が無効になります。
(6)クリーニングの頻度と方法については、院内で定められた未滅菌医療機器のクリーニング手順に従ってください。ポンプ本体のクリーニング方法については、取扱説明書を参照してください。
(7)安全性に関するさらなる情報については、取扱説明書を参照してください。
(8)ポンプ本体は、電磁干渉および外部からの干渉による影響が最小限になるよう設計、試験されています。ポンプ本体の誤作動や性能低下の原因となるような機器は使用しないでください。電磁干渉により、ディスプレイが判読できなくなる可能性やポンプ本体での投与ができなくなる可能性があります。
(9)資格を有する臨床医、看護師、栄養士、または他のライセンスを持つ専門家によって処方された以外の投与液や栄養剤は使用しないでください。
(10)最高の精度を得るため、投与開始時の栄養剤の水面がポンプ本体上端の 25.4cm(10 インチ)上にくるように設置する必要があります。
(11)ポンプセットをすすぐ場合は、ポンプセットがポンプ本体に装着されている状態で行われることが推奨されています。
(12)ポンプセットは投与開始から 24 時間以内に交換する必要があります。これは、システムが指定されたパラメーター内で動作し、患者に危険を及ぼす可能性のある細菌の増殖を防ぎます。
(13)ポンプ本体や付属品が電源コンセントに接続されている間は、これらのアイテムをクリーニングしないでください。取扱説明書で推奨されているとおりにクリーニングしてください。取扱説明書に従ってクリーニングを行わなかった場合、ポンプ本体のシステムの損傷や故障の原因となるおそれがあります。
(14)資格を有する医療従事者の処方によるものであっても、経腸用投与液ではない栄養剤や物質を投与するためにポンプ本体を使用しないでください。
(15)使用済みのポンプセットの廃棄方法については、現行の院内手順や自治体による廃棄物処理のガイドラインに従ってください。ポンプ本体を廃棄する場合は、ポンプ本体に充電式リチウムイオン電池が含まれていることに留意して、これらのアイテムの適切な廃棄方法について必ず最寄りの自治体に問い合わせてください。
(16)ポンプ本体の屋外での使用は短時間（24 時間以内）に設計されています。屋外で長時間(24 時間以上）放置すると、ポンプ本体が損傷や劣化する可能性があります。
(17)ポンプ本体は、一般的な IV ポールと併用できるように設計されています。あらゆる医療装置と同じく、ポンプ本体の重量により IV ポールが転倒する可能性があります。ポンプ本体を IV ポールに取り付ける際は、使用中の IV ポールが安定するよう予防策をとって下さい。
(18)背面ラベルは、改ざん防止や液体の浸入防止のために貼られています。背面ラベルに穴を開けたような痕跡があった場合や剥がして貼り直したように見える場合は、ポンプ本体を使用しないでください。この場合、ポンプ本体の機能は保証できません。
(19)携帯電話端末の使用及び携行にあたっては、取扱説明書や医師の指示に従うなど、注意して使用すること。また、混雑した場所では、付近で携帯電話端末が使用されている可能性があるため、注意して使用すること。
(20)ポンプ本体の使用前及び使用後には、取扱説明書を参照し、清掃及び点検を行なってください［輸液固着に起因する故障、誤動作を防止するため］。
(21) *医療従事者によって指示された、パックに入った経腸栄養剤または調製された流動食の使用が推奨されます。塊、種、ダマを含む自家製のミキサー食や流動食、または市販されていない栄養剤の使用は、閉塞のリスクを高める可能性があります。本装置を使用する場合は、経腸栄養剤が均質で滑らかな粘性であることを確認してください。
(22)ポンプ本体および電源アダプタは水中に浸漬するようには設計されていません。ポンプ本体は電源アダプタを水またはその他の洗浄液に浸さないでください。（取扱説明書の洗浄手順に従わない場合、ユーザー、患者、および臨床医が危険にさらされる可能性があります。他の空調機器と同様に、感電の危険、火災の危険、電気部品の損傷を避けるために、ポンプ本体に溶液が入らないように注意する必要があります。）
(23)使用する栄養剤が IDDSI フレームワークのどのレベルに相当するか確認し、適切なポンプセットを選択すること。適切なポンプセットでない場合、流量精度の異常が発生する可能性があります。

<バッテリーパック>
(1) ポンプ本体で使用しているバッテリーは、取り扱いを誤ると火災や化学事故が発生するおそれがあります。分解したり、60ºC（140ºF）を超える熱を加えたり、焼却しないでください。
(2) ポンプ本体で使用する医療グレードの電源アダプタは、ポンプ本体のリチウムイオン電池の充電回路用に設計されています。市販の電源アダプタやカーアダプタを代用品として使用すると、ポンプ本体の充電回路とバッテリーが損傷するおそれがあります。
(3) ポンプ本体には充電式リチウムイオン電池が含まれています。ポンプ本体を廃棄する際は、使用期限切れバッテリーの廃棄方法における院内の方針および自治体ガイドラインに従ってください。
(4) バッテリー寿命はおおよそのものです。バッテリーの性能は、高温、頻繁な充電、およびその他の要因により低下することがあります。
(5) 他社のバッテリーパックを使用しないでください。本ポンプ装置での使用に承認されているのは、ポンプ本体のバッテリーパックのみです。
(6) 長期保管後は、最適な動作のためバッテリーを数回充電 / 放電する必要がある場合があります。
(7) リチウムイオン電池には蓄積エネルギーが含まれており、分解時に危険を及ぼす可能性があります。危険を軽減するために、ポンプが電池残量不足の状態を示すまで待ってから取り外してください。取り扱い時には、非導電性の手袋を着用すること。リチウムイオン電池を取り出すときは、セルやパッケージに穴を開けないように注意してください。廃棄したバッテリーパックは爆発の危険があるので燃やさないでください

3.相互作用
「併用禁忌（併用しないこと）」
・磁気共鳴画像診断装置（MRI 装置）

4.不具合・有害事象
その他の不具合
・コネクタの外れ・抜け、過嵌合
・チューブの外れ、亀裂、破断、漏れ
・バッグの破れ、破損等

＜動作環境＞
(1) ポンプ本体が動作温度範囲に達するまでは操作しないこと。

【保管方法及び有効期間等】

1. 貯蔵・保管方法
(1) 温度:0～50℃
(2) 相対湿度:93%以下(ただし、結露しないこと)
※短期間では、最長 24 時間まで-25℃まで可。ポンプ本体が動作温度に達するまでは操作しないこと。

2. 動作条件
(1) 温度:5～40℃
(2) 相対湿度:15～93% (ただし、結露しないこと)

【保守・点検に係る事項】

1. 使用者による保守点検事項
ポンプ本体の使用前点検及びクリーニングの頻度・方法については、取扱説明書を参照すること。

2. 業者による保守点検事項
(1) 点検修理又は技術情報に関しては最寄りの弊社営業所又は代理店に問い合わせること。
(2) 正しく安全に機能していることを確認するために定期的に再点検すること。少なくとも 2 年に 1 回の割合で点検を行うこと。所定の動作確認テストは、弊社の行う講習修了認定者に、又は最寄りの弊社営業所又は代理店に依頼すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者
カーディナルヘルス株式会社
お問い合わせ先:0120-917-205

外国製造業者名: Cardinal Health(カーディナルヘルス)
国名:アメリカ合衆国